

## カーナビゲーション



天中殺なのか仏滅か、夫が信号無視の大型トレーラーに接触され、現在我家には軽の代車が来ています。それが新車のレンタカーでギアのレバーがハンドルの脇にあり、おまけにカーナビ付というナウいものなのです。

今どきカーナビを珍しがっているなんて時代遅れもいいところでしょうが、まあそれが私の歳相応ということなのでしょう。

慣れない車で、今まで事故こそ起したことはないものの凹ませたり擦り剥いたりの常習犯の私には、とても運転中に横目でカーナビを見るなどという余裕はありません。停止信号のとき覗いてみると綺麗な画面に付近の目印になる店や施設、観光スポット、おまけにPと駐車場まで表示されています。刻々と動く車、それも何万と言つ数の車に信号を送っているのですから本当に大した技術だと思えます。

これらの信号は衛星から送られてくるそうですが、何万キロも離れた空から物凄い種類や量の情報が送られているのですね。

五十何年前、女学生だった終戦直後は、ザラ紙の文学書は出版されていましたが、見るべき学術書などは皆無でした。「初めての本らしい本」と言われたのは岩波書店から出された「科学の事典」で、当時二千五百円もしたのです。私は母を拝み倒しねたり倒してやつとその本を買ってもらいました。感じとしては今の七、八万円というところでしょうが、顕微鏡下の毛髪鱗やウイルスなどのツルツル紙の鮮明な写真が、何枚も挿入されていて、しかも科学の話ばかりでなく科学者の伝記も載っていたのです。当時の私は夢中で読み耽ったものでした。

その中にウイルソン霧箱についての記述がありました。黒い箱の中にドライアイスを入れて二酸化炭素の霧を作って観察すると、宇宙線が飛び込んでくるのが見えるというようなことでした。線なのか、線なのかもう忘れてしまいました。宇宙には目に見えないものが流れていることを初めて知ったのです。今の

高度の技術からみれば、そんな素朴な時代が嘘のように思えます。

当時の私にとって、どうしても理解出来なかったのは電磁波の存在でした。電磁誘導のフレミングの右手の法則などはどつしてそつなるのかと言つ原因の理解なしに、理屈抜きで覚えなければなりません。1たす1は2といつことは説明できます。しかし磁力は何故そんなとつびも無い法則通りに生じるのか、世の中には説明つかない現象があるといつことも不承不承ながら認めさせられたのでした。

『日進月歩』といつ言葉はI.Tの仕事に携わつて来た者こそ実感している筈です。

私は今から五〇年ほど前に、大隈講堂の前の垂れ幕に「ノーバート・ウイナー氏来講」とあるのを目しました。何気なく聴講した私は「サイバネティクス」といつ言葉を初めて聞いたのでした。「舵」といつ意味のその論理がコンピュータの原理になつたといつことをその十年ほど後に聞いたのですが、そんな訳の分からない言葉の意味する原理から発展したI.Tの技術が今やそれなしには何も始まらないほど進歩し、日常化

している世の中になりました。

そして考えてみれば、電波など改めて認識したこともなくともラジオやテレビなど身边に溢れているのですから、何もカーナビの電波にはかり驚くには当らないのかも知れませんが、ちゃんと受け止める機械さえ発明出来ればよいのでした。そしてまた発明出来ないいで手に入れられない情報は、計り知れないのではないのでしょうか。

そしてふと思つのです。ひよつとしたら死後の世界も私たちには全く見えないとつころに存在するのも知れないなあ。

霊能者とはそれをキャッチする能力のある人なのでしょう。残念ながらといつが幸せなことにとつつか、私にはその情報をキャッチする装置が備わつていません。ただ漠然と暖かい大きな力に護られていることを感じるのです。

毎日へまばかりやつている私ですが、想念はいつも善良なものにしよう、それが何よりの魔よけだと思つているのです。